

歯科健康診査（節目歯科健康診査）の現状と課題

節目歯科健康診査＜受診者数と受診率＞

【単位：人（％）】

年度	対象者	40歳		50歳		60歳		70歳		合計	受診率
		男	女	男	女	男	女	男	女		
H30	7,287	72	34	47	23	42	26	86	55	385	5.3%
H31	7,319	38	62	27	63	25	59	131	95	500	6.8%

【令和2年度】

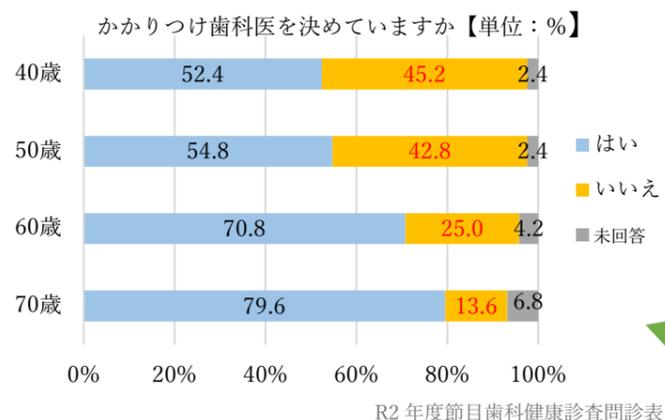
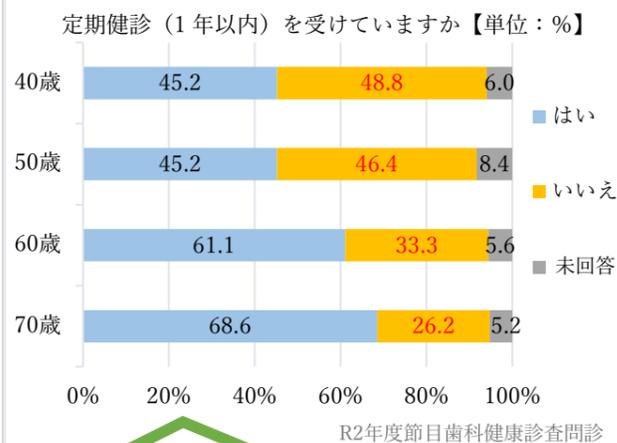
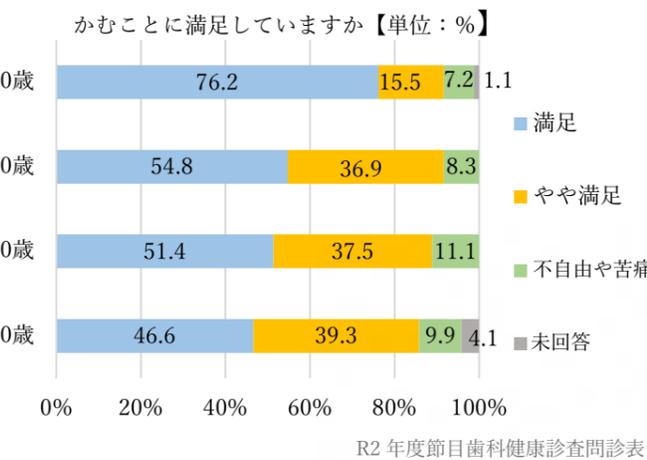
対象者： 令和2年4月1日現在で満40・50・60・70歳の市民で治療中でない方

【単位：人（％）】

対象者	40歳			50歳			60歳			70歳			合計
	男性	女性	計										
区分													
合計	28	56	84	21	63	84	25	47	72	114	77	191	431
対象者	2,040			2,004			1,205			1,812			7,061
受診率	4.1%			4.1%			6.0%			10.5%			6.1%

現状

◆40歳、50歳の受診率が低い。



◆定期健診を受けていますかの問いに対して、40歳50歳は約5割が受けていない。

◆かかりつけ歯科医を決めていますかの問いに対して、40歳50歳の4割以上は歯科医を決めていない。

◆節目歯科健康診査受診後、継続受診しているか不明である。

資料 4-2



健全：健康な状態である
G：歯ぐきに炎症がある（歯肉炎）
P：歯を支えている組織まで炎症がある（歯周炎）

どの年代を見ても・・・
◆歯周組織の状態では、6割以上に炎症があり、判定結果では、8割以上に問題があった。

課題と今後の方向性

◆40歳で既に歯周炎を含む歯周病である方や要指導・要治療である方が非常に多く、40歳以下の世代から、定期的な健診受診やかかりつけ歯科医を持つことが必要である。

保健推進部会ご意見（部会の検討事項）

- ◆40歳、50歳の受診率が低いため、受診率を上げるにはどうしたらよいか。
 - 会社の健康診断に合わせて「口腔の診査」を充実させる。
 - 節目歯科健康診査のみに、定期的な歯の健診が大切だと啓発する。
 - 市民への啓発活動を行う健診の結果用紙を充実させ、興味を持たせる。
 - 健康診断の案内と共に啓発していく。職場などの健康診断やポスターやチラシ配布企業コラボなどで、歯科セミナーを開催。
 - 小学校などで、歯科健診がある時に「自分の両親は歯科健診を行っているか？」啓発のチラシを配布する。
 - 健康診断（集団）の会場に併設として、歯科健診を設けるのはどうか。
 - 草津管内の企業食堂や入口付近に節目歯科健康診査の受診必要性（歯周病予防）のポスターを掲示や、企業内放送を使ってはどうか。
 - 対象者の案内を通知する際に「受診券」とはっきり印字することで受診率を向上させた事例がある。
- ◆節目歯科健康診査を受診後継続受診に繋げるための工夫はどうしたらよいか。
 - 生涯を通じた歯科健診の機会を拡大・充実が必要。
 - ネット予約やSNS、メールなどで、継続受診したらポイントを加算し、ハブラシなどの啓発物品をプレゼントしてみたらどうか。紙以外の媒体での啓発実施。
 - 歯科医院から、歯科健診の定期的継続の必要性を話してもらうのが良い。受診時に歯肉炎や歯周炎など現在の状態を口腔内写真など用いて説明してもらう。
 - 歯周病の初期の段階ではほとんど自覚症状がないにも関わらず、多くの人が歯を失っている事実と定期受診によりそれを改善できるなどの啓発をする。
- ◆若い世代への節目歯科健康診査での有効な啓発方法（手法や手段）
 - 20歳・30歳の節目歯科健康診査の無料化。健診ポイントや歯ブラシセットの配布など。歯科口腔アンケート（事前に配布）結果が悪ければ健診と指導が充実できる。
 - 大学、職場での健診の必要性を説明してもらう。
 - 何かのイベントの一つとして歯科健康診査が受けられと良い（例えばスタンプラリーみたいに）
 - 20代・30代の人達に啓発できる場所があれば健康推進員でも啓発していきたい。
 - 大学生にむけて歯と健康の大切さを知らせるテーマをマッチングさせる。
 - コンビニなどに、節目歯科健康診査のポスター掲示はどうか。
 - 20歳は、成人式の案内と共に無料受診券などの配布、30歳は会社での健康診断の利用

